

### 3. 立地適正化計画における目標と将来都市構造

#### 3-1 立地適正化計画におけるまちづくりの目標

前述した課題に対応するため、川越市全域を立地適正化計画の区域とし、目標を以下のとおり掲げます。

基本  
目標

**市民がいつまでも暮らしやすく、訪れる人を魅了し、  
誰もが住みたくなるまち川越**

##### 目標① 快適な生活を可能とする 居住環境の創出による暮らしやすさの確保

将来の人口減少や既成市街地の空き家等の増加に対応し、生活利便性の高い区域に居住を誘導することにより、都市のスプロール化<sup>\*</sup>を抑制するとともに、市街地の人口密度を一定規模以上に保つことで、地区の活性化や行政サービスの効率化につなげ、いつまでも暮らしやすいまちの実現を目指します。

##### 目標② 川越の活力を維持する 拠点<sup>\*</sup>における都市機能の集積と魅力的な空間の形成

交通利便性が高く、都市機能の集積がみられる駅周辺において、地域特性に応じた都市機能施設を維持・誘導し、各拠点における活力の維持と魅力の向上を図ります。特に三駅を中心とする都心核は、県南西部地域の拠点都市としてふさわしい都市機能施設の維持・誘導を行い、観光地としての側面を持つ北部市街地では、蔵造りや町家造り等の歴史的建造物の保存利活用を図るなど、川越の歴史や文化資源を生かしたまちづくりに共感する人たちの居住を誘導する等、魅力的な空間の形成を図ります。

##### 目標③ 誰もが移動しやすい 公共交通の充実

多極ネットワーク型の都市構造を目指すため、拠点を中心とした公共交通を充実させ、居住地から拠点への移動手段を確保し、乗換利便性の向上による拠点間の移動を円滑にすることで、地域住民の生活利便性を確保します。

##### 目標④ 川越の魅力・生活を支える 既存集落におけるコミュニティの維持

川越の良好な自然環境と農業を支える郊外の既存集落等については、地区の公民館や学校等、地域コミュニティの拠点を核として、持続性のある生活圏の維持を図ります。また、農業振興施策との連携によって自然とのふれあいの場を提供するなど、市民の多様なレクリエーション先として、交流によるにぎわいの創出を目指します。

川越市都市計画マスタープランにある将来都市構造「**地域特性や魅力を生かした都市機能の配置と連携**」の考え方にに基づき、立地適正化計画においても、**拠点を核として都市機能・居住を誘導し、また、公共交通の利便性の向上を図り拠点間が結ばれた「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」**の形成を目指します。

<sup>\*</sup>都市のスプロール化：市街地が無計画に郊外に拡大し、虫食い状の無秩序な市街地が形成されることです。

<sup>\*</sup>拠点は、4-2で説明する都心核・地域核を指します。

### 3-2 将来都市構造

#### 【立地適正化計画における将来都市構造】

都市機能が集積する拠点と周辺住宅地が結ばれ、  
都心核—地域核間を結ぶ基幹的公共交通が充実した、  
利便性の高い多極ネットワーク型都市構造

- 公共交通の利便性、人口密度、良好な住宅市街地、災害の危険性の高いエリアや居住に適さないエリア等を勘案して居住誘導区域を設定します。
- 居住地の利便性等を確保するため、地域の特性に応じた公共交通ネットワークを構築します。
- 都心核及び地域核に都市機能誘導区域を設定します。
- 都心核—地域核間を結ぶ基幹的公共交通の維持・強化を図ります。

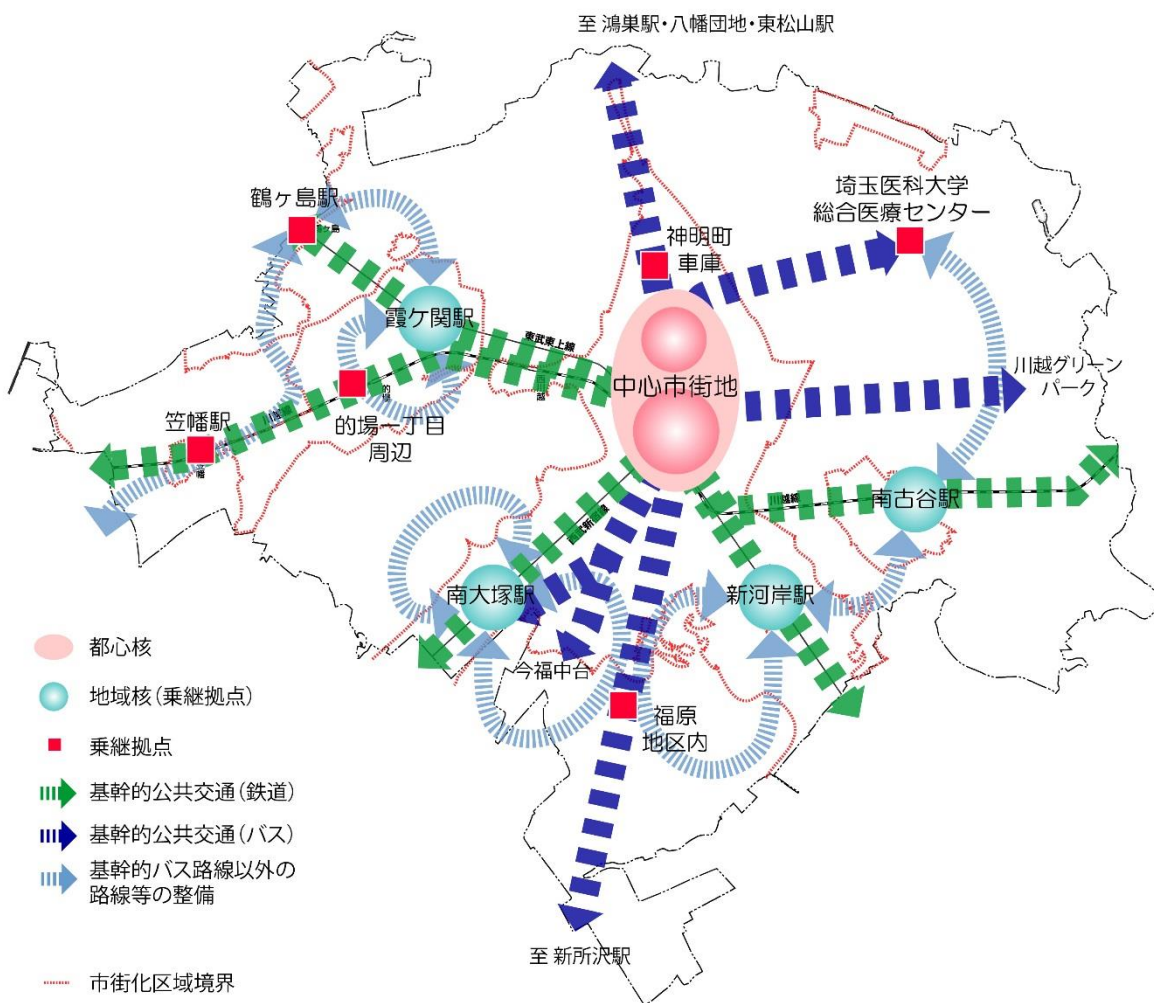


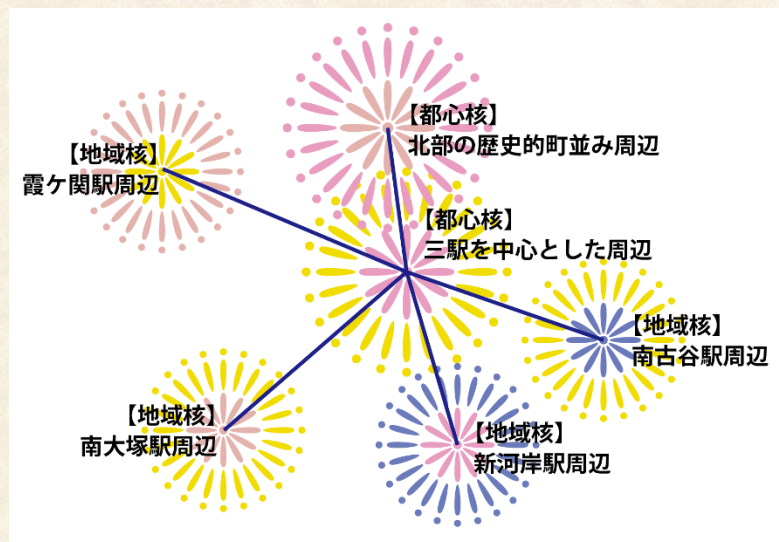
図 立地適正化計画における将来都市構造

【コラム】



## 川越市の将来都市構造のイメージは 打ち上げ花火の「スターマイン」です

川越市の都市構造は、中心市街地を「コア」として、「コア」と各「拠点」が利便性の高い「公共交通ネットワーク（軸）」で結ばれ、軸の周辺に面的に居住誘導区域が広がる、多極ネットワーク型の構造です。この構造を、花火の「スターマイン」に例え、中心市街地をコアとした「スターマイン型都市構造」と名付けました。



### 【「スターマイン型都市構造」の考え方】

スターマインとは、いくつもの花火を組み合わせることで連続的に打ち上げられる花火で、中心の大玉とその周辺に多くの花火玉が同時に見られるものです。

本市の目指す将来都市構造（前ページ参照）のように、「中心市街地」の都心核と「霞ヶ関、南大塚、新河岸、南古谷」の各駅を中心とした生活圏域の地域核がそれぞれの色で魅力的に光り輝き、それらを結ぶ交通ネットワーク周辺に居住する市民一人一人の生活（行動）も光り輝き続けることをイメージして「スターマイン型都市構造」としました。



【コラム】



## 「コンパクトシティ」をめぐる誤解

### ○「一極集中」のまちにするの？

⇒ 違います！

一極集中のまちにするのではなく、中心市街地や利便性の高い鉄道軸で結ばれた各地域拠点を生かした、「多極ネットワーク型」のコンパクトシティを目指すものです。

### ○人口を一つのエリアに集めるということ？

⇒ 違います！

人口を一つのエリアに集めることを目指すものではなく、郊外の農業集落など、今ある暮らしは尊重し、これ以上拡散しないための対策を講じるものです。

### ○強制的に移転などをしなくてはならないの？

⇒ 違います！

短期間で行政から移転を指導するものではなく、適正な誘導施策等によって、時間をかけながら都市機能や居住の集約化を進めるものです。